〔症例概要〕

<table>
<tr><th rowspan="2">No.</th><th colspan="2">患者</th><th rowspan="2">1日投与量
投与期間</th><th>副作用</th></tr>
<tr><th>性・
年齢</th><th>使用理由
（合併症）</th><th>経過及び処置</th></tr>
<tr><td>1</td><td>男
60代</td><td>緑内障
（白内障）</td><td>不明
約５年間</td><td>角膜混濁，霧視，視力低下，角膜血管新生，結膜充血
投与開始日　前医にて緑内障に対し，ラタノプロスト，ブリンゾラミド・チモロールマレイン酸塩配合剤，本剤（ブリモニジン酒石酸塩）の３剤で両眼加療。
投与約１年後　ビマトプロスト，ブリンゾラミド・チモロールマレイン酸塩配合剤，本剤の３剤へ変更。
投与約５年後（発現日）　右眼の視力低下を自覚し，角膜への血管侵入と角膜混濁を認めるようになった。原因精査・加療目的に同年，大学病院を紹介受診。前眼部は右眼の耳側，鼻側の角膜周辺部に扇状の混濁，実質深層から中央部への血管侵入，左眼の角膜周辺部と上方に混濁と，周辺部からの血管侵入，および両眼の著明な結膜充血を認めた。その他，角膜後面沈着物や，角結膜上皮欠損，眼瞼結膜濾胞や眼瞼炎等の所見はみられなかった。両眼ともに軽度白内障を認めた。角膜実質炎をきたす既往歴がなく，そのほかに視力低下をきたす異常所見を認めないことから，本剤による角膜混濁を疑った。ビマトプロスト，ブリンゾラミド・チモロールマレイン酸塩配合剤の２剤を点眼継続，本剤を点眼中止の指示とし，ベタメタゾンリン酸エステルナトリウムを１日３回両眼に点眼指示。
初診14日後（投与中止日）　大学病院初診時に本剤中止を指示したにもかかわらず，本剤が点眼されていたことが判明した。しかし，矯正視力は右眼（0.6p），左眼（1.2）と改善を認め，前眼部OCTでは角膜実質中間部層を中心に混濁所見を認めた。右眼の輪部充血は改善傾向を示し，角膜実質混濁は大学病院初診時と比較して細隙灯顕微鏡所見では淡くなった印象であった。左眼の角膜混濁は細隙灯顕微鏡所見では消退していた。本剤点眼は再度中止を指示，ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム点眼は継続指示。
投与中止14日後　矯正視力は右眼（0.7p）と改善し，左眼（1.2）であった。眼圧は，右眼30mmHg，左眼45mmHgと上昇し，細隙灯顕微鏡所見では右眼の混濁が若干淡くなっていた。前眼部OCTにおいて角膜実質中間部層を中心に混濁病変を認めたが，前回と比較しやや混濁範囲が縮小し，混濁自体も薄くなっていた。眼圧上昇に対して，ビマトプロスト，ブリンゾラミド・チモロールマレイン酸塩配合剤を継続のうえリパスジル塩酸塩水和物２回/日を追加し，ベタメタゾンリン酸エステルナトリウムを点眼中止のうえフルオロメトロン３回/日を点眼開始し，再診を４日後に指示。
投与中止18日後　混濁が若干薄くなったが依然眼圧は高値であり（右眼31.0 mmHg，左眼35.0mmHg），ステロイドレスポンダーの可能性を考慮し，フルオロメトロン中止，炭酸脱水酵素阻害薬の内服を１日２回で開始。
投与中止28日後　眼圧が右眼20mmHg，左眼21mmHgと低下した。また，右眼の矯正視力が（1.0）まで上昇し，角膜混濁はさらに若干薄くなった。
投与中止105日後　経過観察し，以降混濁の程度に著変なく，視力・眼圧は安定していた。角膜混濁は残存したが自覚症状は改善し，視力も安定したため前医で経過観察の方針とし，大学病院終診となった。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="4">併用薬：ビマトプロスト，ブリンゾラミド・チモロールマレイン酸塩配合剤，ラタノプロスト</td></tr>
</table>

〔症例概要〕

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置
2	男 70代	正常眼圧緑内障(高血圧，肺気腫，白内障)	1滴2回 496日間	角膜混濁 投与約5年前　緑内障に対し，ラタノプロストを両眼に投与。 投与約32ヶ月前　緑内障に対し，本剤A(ブリモニジン酒石酸塩)を右眼に投与。 投与開始日　本剤Aを投与中止し，本剤B（ブリモニジン酒石酸塩・ブリンゾラミド配合剤）を右眼に投与。 投与約15ヶ月後　右眼に強いそう痒感出現。 投与約16ヶ月後(発現日)　前医定期受診時，右眼矯正視力0.2まで低下。眼圧16/11mmHg。右眼点状表層角膜炎と角膜鼻側に扇状の角膜混濁を認め，混濁部位の角膜深部層に新生血管認めた。結膜は充血，濾胞あり。ラタノプロスト（両眼）および本剤B（右眼）を使用していたので，本剤Bを中止し，ベタメタゾンリン酸エステルナトリウムおよびガチフロキサシン水和物を右眼に投与開始。 投与中止18日後　大学病院受診。右眼矯正視力0.4。混濁軽度改善。 投与中止52日後　右眼矯正視力0.7まで改善。角膜混濁は徐々に軽減し，内皮側の角膜混濁は残存。結膜所見は正常化。 投与中止87日後　角膜混濁の転帰は回復したが，後遺症（角膜混濁残存）あり。
	併用薬：ラタノプロスト			